

大鹿村中央構造線博物館たより

165号



2023年2月発行

TEL: (0265) 39-2205
staff69@mtl-muse.com

諏訪湖の成り立ち



写真1 守屋山から見える諏訪湖

毎年冬になると、諏訪湖の御神渡りが出現するか否かニュースになります。御神渡りの観測記録は、室町時代からあるそうですが、そもそも諏訪湖はいつからあるのでしょうか？

諏訪湖を含む諏訪盆地の形成には、糸魚川ー静岡構造線の断層活動が関わっていると考えられてい

ます。糸魚川ー静岡構造線は、もともと、2000万年前～1500万年前頃、日本がアジア大陸から離れて列島になった頃にできた古い断層ですが、150～120万年前頃から再び動き出して活断層になり、図1のように糸魚川ー静岡構造線を挟んで北東側が北西方向に、南西側が南東方向にずれるような動きを繰り返すようになったようです。すると、もともと糸魚川ー静岡構造線が逆S字形をしていた諏訪湖のあたりでは、ずれ動くにつれ凹地が形成され、そこに周囲からの土砂が堆積して、諏訪盆地ができたと考えられています。そして、諏訪湖ができたのは、20万年前頃ではないかという説があるようですが、まだはっきりとわからないことも多いようです。(宮崎)

参考文献：町田ほか編(2006)

「日本の地形5中部」，東京大学出版会。

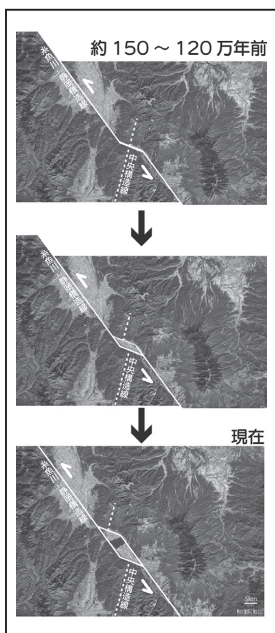


図1 諏訪盆地のでき方の模式図